



# JANSI ニュースレター

お問い合わせ先

原子力安全推進協会 事業戦略本部

総務部 広報グループ

TEL : 03-5418-9312

FAX : 03-5440-3606

e-mail: newsletter@genanshin.jp

HP: http://www.genanshin.jp/

Vol.16(2017年冬号)

本ニュースレターは、当協会と接触のあったマスコミ関係者の方々に対して、当協会の活動状況をお知らせするために発行しています。

## 元INPO\*のウェブスター氏がアドバイザーに就任

INPO(米国原子力発電連協)のEVP(Executive Vice President)を務めたウィリアム・ウェブスター氏が、このたびJANSIのエグゼクティブ・アドバイザー(Advisor for Executive Leadership)に就任しました。同氏はINPOでCEO(最高経営責任者)に次ぐナンバー2として電力会社や発電所の評価、発電所の運転や技術への支援、緊急時対応の責任者を務めていました。

ウェブスター氏はINPOで34年のキャリアがあり、設立間もないころからのINPOを熟知している方で、同氏からJANSI及び原子力事業者の幹部に対し自主規制組織のあり方及びJANSIの改革についてアドバイスをもらい、自主規制組織・機能のレベルアップを図るとともに事業者の原子力安全を更に高める方策を検討したいと考えています。

1月10日にはアドバイザー就任後初めてJANSI職員に対し挨拶。16日にはJANSI職員に対しINPOが今日の姿となるまでの経緯について様々なエピソードを交えた講演を行いました。

今回の来日ではJANSI幹部との懇談やJANSI内会議を傍聴する他、中部電力・勝野社長(電事連会長)と面談し、浜岡原子力発電所を訪問しました。さらにJANSIが主催するCEO会議のファシリテータを務めたほか、CNO(原子力最高責任者)の会議を観察し助言をいただくなど精力的に活動されました。

今後、同氏は年に数回来日するとともに、テレビ会議によるJANSI幹部との定期的な情報交換を通じて、JANSIが日本の原子力業界の自主規制組織としての役割が果たせるよう多方面にわたる分野への助言をいただく予定です。

\*INPO(Institute of Nuclear Power Operations)は、米国原子力業界における自主規制組織

### JANSI職員への挨拶の概要

JANSIでは様々な変革・進捗が行われているが、これだけのものを成功に導くためには職員全体の力が必要だ。

日本や米国の原子力業界は様々な課題に直面し道のは厳しいが、JANSIやINPOのような組織が無ければさらに厳しい状況となるだろう。

このような組織にどのような課題があり、どれだけの努力が必要か外部からは分からないが、挑もうとしている仕事は世界を見渡してみても達成感ある充実したものだ。

皆さんにはこれまでの進捗や掲げているミッションについて誇りに思ってもらいたい。



挨拶するウェブスター氏

### 《William E. Webster, Jr.氏 略歴》

米国Villanova大学(土木工学)卒業、米国海軍に勤務後、1982年にINPOに就職。

Brunswick原子力発電所で上級原子炉運転員資格を取得。

INPOでは1998年にバイスプレジデント(VP)に選出されるまで、評価(エバリュエーション)担当VP、プラント支援担当VP及び局長、技術支援及びプラント解析部門長、緊急時対応副部門長等を歴任。

2007年12月にシニアバイスプレジデント(SVP)に着任。その後EVPへ昇格し、2016年6月の退職までCEOに次ぐナンバー2のポストを勤めた。

## JANSI Annual Conference 2017 を4月に開催

JANSIは「Annual Conference 2017」を4月27日(木)に、イノホール(千代田区内幸町)で開催します。

4回目の開催となる今回も事業者CEOや学識経験者、各界有識者によるディスカッションを行うとともに、JANSIの2016年度の活動成果について報告します。

本カンファレンスは、報道関係者の傍聴席も用意しております。詳細につきましては、改めてご案内します。

ご予定をよろしくお願いいたします。



昨年のカンファレンスの様子

### JANSIのミッション(経営理念)

JANSIは、日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求(～たゆまぬエクセレンスの追求～)を確かなものとするため、原子力事業者の自主的継続的安全性向上活動を牽引する。

### JANSIのビジョン(ミッション達成のための未来図)

JANSIは、原子力産業界の原子力安全確保における自主規制組織として、自らを高め、原子力安全における基準となるエクセレンスを明確化し、事業者にエクセレンス追求を求めている。また、原子力施設評価を通じてエクセレンスとのギャップを同定し、必要な支援活動を実行している。

## 電事連勝野会長がJANSI職員に挨拶

電気事業連合会の勝野哲会長が、1月6日にJANSIを訪問、職員に対し新年の挨拶をされました。電事連会長がJANSI職員に直接挨拶されるのは初めてです。

勝野会長は、事業者が福島第一原子力事故以降、リスクマネジメント体制の強化に取り組んできたとして、この中で安全品質向上のPDCAを回すことが重要であると指摘、原子力の安全性向上に対する第三者のチェックとしてJANSIは重要な役割を担っている、と述べられました。

その上で、次の3点を指摘されました。

1点目は、JANSIは組織運営体制など様々な改革が進められて迅速な判断ができ、事業者とも、経営層から現場に至る各レベルでコミュニケーションがとれるようになった。この体制下でしっかりPDCAを回してほしい。

2点目は、JANSIに対するオーバーサイト機能として理事会、CEO会議が活性化してきたことである。当初は、このオーバーサイトということを概念的にとらえることが難しく、米国でもその域に達するまで時間がかかったそうだが、我々もJANSIの活動が効果的なものとなるよう取り組んでいきたい。

日本のCEO同士もさらにコミュニケーションを深め期待に応えられるようにしたい。

3点目は、JANSI自体のボトムアップへの期待である。事業者から必要な支援を行い機動的に活動が継続できるようにする一方、

JANSIに期待するところを明確にする。一昨年行われたINPOのGAPアセスメントの指摘に対するJANSIの改善に向けた取り組みを推し進め、米国の期待に応えてもらいたい。

最後に、WANOと一層の連携をとってもらいたい。日本の文化的な背景を理解しているJANSIがピアレビューを行うと同時に、WANOという世界のエクセレンスとの比較も重要である、と述べ、職員を激励されました。

これに対して、JANSIを代表して、松浦理事長が事業者の期待に沿えるように一層努力していくとの決意を述べました。



挨拶する勝野電事連会長(左)と松浦理事長

## 第4回東アジア原子力フォーラムでJANSI活動を報告

11月14、15日に開催された第4回東アジア原子力フォーラム(日本原子力産業協会主催)に参加し、JANSIの活動について報告しました。

本フォーラムは、韓国、台湾(中国はオブザーバー参加)、日本の各原産協会・会議が中心になり開催しているもの。今回は、東京電力福島第一原子力発電所事故後の各国の安全対策や原子力に関する最近のトピックスを紹介するセッションが行われた他、同発電所を訪問し、同所の現状に対する印象について意見交換をしました。

初日の福島訪問では大熊町や楡葉町等、発電所の周辺も視察。地域の現状や避難されている方の今後の帰還計画等について東京電力の担当者から説明を受けました。一方、発電所構内は除染が進み、敷地のかなりの部分で作業用マスクの着用も不要となり、コンビニや食堂等の施設も運営されている状況に、外国の参加者は感銘を受けていました。

翌日の会議では、各国の原子力安全性向上策についてのセッションの中で、JANSIから「JANSI's activity to support the voluntary safety improvement of nuclear industry」と題してJANSI全体の活動紹介と安全性向上部の業務内容について報告しました。これに対し参加者から自主組織としての難しさ、資金、規制との関係について質問があり、厳しい規制基準の導入とその対応により事業者が疲弊しており、なかなか自主的な改善を試み

る余裕がないこと等を回答しました。

この他、韓国と台湾からは過酷事故対策等の概要について報告がありましたが、両国では事故後の原子力産業をめぐる厳しい情勢は続いているとのことでした。

最近のトピックスを扱うセッションでは、日本原子力発電から昨年設置された緊急時支援センターの状況、台湾からは発電所の出力向上への取り組み、韓国からは廃止措置計画の現状が述べられました。オブザーバー参加の中国からは、最近設立(改組)されたピアレビュー経験交流委員会の活動などが紹介されました。



JANSIの活動をセッションで報告

当協会HPには、より詳細な情報を掲載しております。ぜひご覧下さい。

<http://www.genanshin.jp/>